

地域 ORC 第 4 研究班 2005 年度 第 1 回研究会 (打ち合わせ会議)

- 日 時 : 2005 年 4 月 22 日 (金) 10:15-11:30
- 場 所 : 龍谷大学深草学舎 8 号館 4 階会議室
瀬田学舎 1 号館理事室
(テレビ会議)
- 出席者 : 青木恵理子、大林稔、川端正久、河村能夫、斎藤文彦、中村尚司、舟橋和夫
(50 音順、敬称略)
- 内 容 : 第 4 班およびワーキング・グループによる今年度の研究の進め方について
- 配布資料 : 1) 第 4 班研究員英文連絡文書(2005 年 3 月 17 日 lorc-04:078 添付、「LORC 4th member communication.pdf」)
2) 「ワーキング・グループ立ち上げのお知らせ及びメンバーの募集について」
「WG 参加希望提出用紙」(2005 年 4 月 18 日 lorc-ALL:173 添付、「LORC ワーキンググループ趣旨説明文.doc」, 「WG 参加希望提出用紙.doc」)
3) 「2005 年度班別予算 (案)」
4) 「4 班メンバー経費使用のガイドライン」(2005 年 3 月 25 日、lorc04-079 文面)

2005 年度の研究の進め方について

- 一方ではこれまで通り班の活動を継続するが、他方で班横断的なワーキング・グループを立ち上げ、LORC 全体に共通するテーマを討議していくという方針。2 月に開催された全体会議での議論を踏まえた決定。
- ワーキング・グループへの参加は強制ではない。各研究員の関心に沿って参加希望を募ると同時に、LORC の側からも必要に応じて参加のお願いをしていく。また、各ワーキング・グループは排他的なものではないので、あるグループに所属しているから他のグループの活動に参加することができないということはない。
- ワーキング・グループで取り組む課題・対象は日本に限定されたものではない。途上国を中心に研究をされている第 4 班の研究員のみならず、各自の関心・視点から関わっていただきたい。

予算について

- これまでのように単純に 4 等分するというのではなく、各班のニーズに基づいた予算編成とした。4 班に関しては、出張旅費 600 万円、業務委託費 150 万、研究者招聘費用 50 万などを計上している。
- このような予算を念頭に、現地調査の実施などをお考えいただきたい。現地でアシスタントを雇うために予算が必要な場合、備品が必要な際などは、その都度ご連絡をい

たければ対応する（LORC 備品の貸し出し、追加購入など）。

意見・質問

- 誰がどこに出張しているのかなど、予算執行の内容について情報を公開するよう求めた。共同研究ではなるべく情報を共有したほうが、有益でそのことで得られる利点は情報公開のためのコストを上回る。今後は是非情報を共有してほしい。
 - 全面的に賛成。これまで事後的な情報しか回っていなかった。改善したい。
- 「国際シンポ」は具体的にどういったテーマで、いつ、どこで開催される予定か。
 - 6月25日（土）、26日（日）の週末にLORC研究員を対象にディスカッション・テーブルを開催する。全体で、LORCのこれまでの成果を議論する場となる。4班海外研究者も参加予定。また、テーマ、内容、方法については未定だが、年度後半に公開シンポジウムを開催する予定。
- 年間のスケジュールを、わかっている範囲でホームページなどを通してまとめて公開してほしい。
- 業務委託費の予算が多くとってあるが、現時点ですでに用途について案はあるのか。
 - 各国の人材育成、研修の仕組みについて、現地の協力者をお願いをして情報収集してもらうことを想定して積算した。ただし、具体的な進め方については各国を担当するそれぞれの方にご相談させていただきたい。また、その他にも調査委託の希望などがあれば、ご提案いただきたい。150万円というのは暫定的な目安。
- 用品費が非常に使いにくい。前年度から必要なものを申請しておかねばならないため。コンピュータ・ソフトなど、必要性を事前に把握できないものは多くある。見直す必要があるだろう。センター長から問題提起をしてほしい。
- ワーキング・グループの活動形態、趣旨、意義などがいまいちはっきりしない。
 - すでに説明したように、これまでの班毎縦割りの運営体制に問題があり、班横断的な活動が必要であるという2月の全体会での議論を踏まえて結成されたもの。活動は班研究会と同程度の頻度で少人数の研究会を開催するという形態となるだろう。

次回日程

金曜日午前中、キャンパスプラザ京都での開催を主候補に、前期の間にあと1-2回研究会を開催する。日程は調整後、事前に連絡をする。

以上